

群馬県立館林商工高等学校			学 校 評 価 一 覧 表 ① （令和4年度版）		（様式1）					
羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策
Ⅰ 特色ある学校づくり	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、85%以上である。	・コロナ対策で制約がある中で、生徒会や各分掌間で情報共有をしながら普段の学校生活をはじめ、学校行事や集会等、生徒の活躍のチャンスをできるだけ多く設け、充実した学校生活となるよう支援していく。 ・生徒が活躍できる場を提供することによって、生徒自らが積極的、主体的に専門的な学習に取り組める環境を整える。		A	B	・コロナ対策をとりながら、様々な活動を、各分掌等で工夫して実施してきている。生徒の81%、保護者の88%は肯定的な評価をしている。今後も、生徒会や各分掌間の情報共有をさらに進め、充実した学校生活を目指していく。			
		② 専門教科の特色を生かした教育活動（課題研究等）に、生徒の85%以上が満足している。			A	A	・生徒の94%、保護者の91%が肯定的な評価をしている。課題研究や実習等を通して、生徒が活躍できる場を一層提供していくとともに、地域連携や外部講師等もさらに充実させていく。			
Ⅱ 学習指導について	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 授業について、生徒の80%以上が「分かる授業」だと感じている。	授業における言語活動の充実を目指し、協働学習やICTを活用した授業の実施により、授業改善を図る。		A	A	・生徒の90%が肯定的評価をしているが、今後も、ICT等を活用したより分かりやすい授業に向けて各科で改善を図る。			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 自己の目標に対して、確かな学力を身に付けていると感じている生徒が80%以上である。	進路実現を達成するために必要とされる学習内容を明確にし、支援することによって学習意欲の向上を図る。		B	A	・生徒の87%が肯定的評価をしているが、今後も、小テスト等を行う機会を増やして、学習意欲の向上と学力の定着を図る。			
Ⅲ 生活指導について	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 全ての生徒が、学校生活に対して挨拶やマナーを守っていると感じている生徒が85%以上である。	・生徒会役員を中心にマナー・モラルについて考え、行動する機会を設ける。原則的には励まし、認める指導を心掛け、生徒の自己指導能力の育成を図る。		A	A	・86%以上の生徒が挨拶やマナーを守っていると回答した。今後も生徒自身のマナー、モラル等について考えさせる機会を増やし、さらなる規範意識の向上を図る。（昨年より低下）			
		⑥ スクールカウンセラーや特別支援コーディネータを活用し、生徒への早期対応を図り、学校不適応者をなくす。	・スクールカウンセラーの活用を促したり、アンケートを実施することにより、現状を把握し、職員間の共通認識と協力体制のもと、早期対応を図る。		A	－	・今後もスクールカウンセラーを活用し、学校医にも助言をもらい、学校不適応生徒の早期発見、及び対応に努める。 ・生徒、保護者、職員の共通認識と協力体制を一層確立するために、細やかな情報交換の場を設ける。			
		⑦ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると感じている生徒が80%以上である。	・職員研修会を実施し、全職員のいじめに対する認識を高める。 ・職員間で生徒情報を共有し、職員がいじめの兆候を見逃さず、把握した際は組織的な対応を図る。		A	A	・今後も全職員のいじめに対する察知能力を高めるため、県からの通知や指示内容を迅速かつ正確に伝え、職員研修を実施すると共に、生徒情報の共有を密に行う。			
	5 生徒は、健康で規則正しい生活を送っていますか。	⑧ 不規則な生活による遅刻者が、前年比80%以下である。	・生徒に朝学習の意義を深めさせ、5分前登校の一層の推進を図る。 ・遅刻の増加、欠席の兆候が見られた時点で対応を図る。 ・保護者との連絡・連携を密にし、保護者の理解と協力を得る。		C	－	・76%の生徒がゆとりを持った登下校ができていると回答した。（昨年より低下） ・9月までの遅刻者は前年比116%に増加している。今後はさらなる改善のため、家庭と連携した指導を継続的かつ積極的に行う。			
	6 生徒の安全について配慮した指導を行っています。	⑨ 交通事故等の未然防止について90%以上の生徒が意識を持っている。	・日頃の交通安全指導や交通安全教室の充実を図り、生徒の交通安全に関する意識を高める。 ・交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。		B	A	・9月までの交通事故件数は昨年より減少して2件であった。（昨年8件）今後も交通事故防止のために生徒主体の交通安全教育を企画・実施し、安全意識を向上させる。			
		⑩ 環境面・保健面で生徒の安心安全を確保するために、適切な対応方法を理解している生徒が80%以上である。	・職員に危機管理や新型コロナ感染症対策について周知し、教育環境の整備や保健衛生指導の充実を図る。 ・生徒主体の防災訓練やセミナー等を実施し、生徒の防災や健康管理に対する意識を高める。		A	A	・危機管理マニュアルを全職員へ周知する。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策について、職員間の共通認識を図るとともに、生徒へ適切な指導を繰り返す行う。			

Ⅳ 進路指導について	7 生徒が自己の特性を認識し、それを積極的に生かす指導を行っていますか。	⑪ 進路実現に向けて資格取得や技能習得に積極的に取り組んでいる生徒の割合が90%以上である。	・科を中心として課外・補習等の指導体制を整え、学年団や進路指導部とも連携して上級資格の取得を目指す。 ・進路ニュースや進路の手引きを活用し、各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。 ・3学年全員の面談を行い、生徒の特性に合った進学や企業選択を支援していく。	B	B	・88%の生徒が肯定的に答えた。今後も、上級資格の指導を行う教科担任による個別指導の充実や、クラス担任または進路指導部による個別面談の実施を継続的に行う。			
	8 適切な進路決定を行なえるよう、保護者の協力を得ていますか。	⑫ 進路実現について、85%以上の生徒や保護者が進路情報を理解し、関心を持っている。	・進路指導部と学年団の連携を密にし、学年会で、進路の指導や情報等を検討し、各担任が保護者面談に活用できるようにする。 ・3学年保護者会では、進路ニュースや進路の手引などを活用し進路情報を提供する。	A	A	・89%の保護者と91%の生徒が肯定的に答えた。今後も、三者面談の実施や、進路行事に親子での参加を促すなどの取り組みを行い、各家庭でより充実した進路決定がなされるよう支援を行う。			
	9 進路実現を積極的に行うことができるよう、校内での組織的な取り組みを行っていますか。	⑬ 進路実現に向け、面接や小論文などに、3年生の80%以上の生徒が主体的に意欲を持って取り組んでいる。	・外部講師による進路ガイダンスや職業講話を実施し、生徒の進路実現の意欲向上を図る。 ・就業体験・先輩からの進路報告会等をとおして、職業観の育成や進路実現に向けて努力の重要性と自分自身の課題を自覚させる。 ・3学年においては、長期休業中を利用し、コミュニケーション能力や文書作成能力向上のために、面接練習や小論文対策を実施する。	A	A	・75%の生徒が肯定的に答えた。今後も、外部講師を招聘しての進路対策講座の実施や、学年が主管となって面接指導を実施するなど、他分掌と協力して対策を行う。			
Ⅴ 開かれた学校づくりについて	10 家庭や地域社会に対して、学校教育活動を積極的に発信していますか。	⑭ 本校の教育活動について、保護者の80%以上が関心を持っている。	・学校の教育活動や成果の情報発信を強化するため、Webページの充実を図る。また迅速な更新ができるように、Webページの作成方法や構成を検討する。	A	A	・即時的な更新については改善の余地がある。学校行事や教育活動の成果について、画像を多用した発信に努めたい。			
		⑮ PTA総会や学年保護者会等に、積極的に参加している保護者が70%以上である。	・PTA行事への保護者参加について案内や説明を行うとともに、支部組織を活用して、積極的な参加を呼びかける。	B	—	・3年ぶりにPTA総会も開催され、学年保護者会の参加も多い。ただ、行事に関してはコロナ禍の影響がある。			
	11 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 学校評議員制度を活用し、実施可能な提言を2つ以上取り入れ、学校運営改善に役立てる。	・本校の重要課題を明確にし、評議員からの評価・要望を受け、改善に取り組む。	B	—	・学校評議員から、商工会や明和町及び地元企業との地域連携を今後も進めてほしいとのご意見をいただいた。また、生徒の交通安全についてもご意見をいただいた。 ・今後も地域連携を深め、地元と連携した取組を今後も継続していく。 ・交通安全指導について、今後も定期的に指導を行っていく。			
		⑰ 地域の社会人を講師とした講演会を年2回以上実施している。	・講演会を実施する前後に、専門教科において事前指導や事後指導を設け、継続的な授業になるよう実施する。	B	—	・コロナ禍でも可能な範囲で、地域や産業界の方を講師として招聘する。			
	12 地域の学校や企業等と連携していますか。	⑱ 地域住民や地元企業等と連携した活動を年3回以上実施している。	・課題研究等を通じ、地域のイベント等に参加することで交流を図る。また、地元企業とも連携を図り、多くの教育機会を創出する。 ・ボランティア活動へ積極的に参加し、地域との交流を深める。	A	—	・課題研究を中心に、地元自治体、企業等と、ものづくりを通じ、多様な連携を行っている。 ・コロナ感染防止対策を行った上で、インターンシップ協力企業と連携し、内容の充実を図る。また、地域のイベントへ積極的に参加する。			
		⑲ 地域の幼稚園・小中学校・大学と連携した教育活動を年2回以上実施している。	・各教育機関と連携を図り、社会人として必要な幅広い教養を身に付ける。また、専門高校の良さをPRする。	B	—	・コロナ禍でもできる範囲で、地域のイベントなどをとおして、ものづくり教室や販売活動などを行う。			
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ 生徒の80%以上が「ICTを用いた授業が行われている」と回答している。	授業にICTを活用することで、分かりやすく、生徒が興味関心をもてるよう授業改善を図る。	B	A	・生徒の88%が肯定的評価をしているが、今後もICTを活用し授業改善等の職員研修等を実施し、ICTを用いた授業改善を図る。			
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ 働き方改革に伴う、業務の効率化を図り、職員会議及び職員朝会のペーパーレス化を70%以上実施している。	・資料の性質上、ペーパーレスが可能なものについては積極的に実施していく。また必要に応じてパスワード設定等のセキュリティ対策も講じる。	A	—	・今後も、セキュリティ対策を考慮し、各分掌の協力も仰ぎながら、ペーパーレスが可能なものについて積極的に実施していく。			